

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月1日

平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。－エペソ4:3

私たちが共有する嗣業としての御霊によるひとつにはいくつかの側面があります。そのひとつは私たちの希望です。それは単なる喜ばしい楽観論ではなく、クリスチャンとしての私たちの召しの希望です。クリスチャンとして私たちの希望とは何でしょう？それは永遠に栄光にあって主と共にあることです。真に主のものである者で、その心にその希望を持たない者はひとりもありません。なぜならキリストを私たちの心の内にもつことは、「栄光の希望」を持つことだからです。主のものであると宣言する者で、天あるいは栄光の期待を持たないとしたら、その者の告白はまったく虚しいものです。さらにこの希望を持つ者はひとつであるのです。なぜなら私たちは永遠に共にいることの希望を持っているからであり、どうして時間の中で分裂してしまうことがあり得ましょう。私たちが同じ未来を共有するのであれば、現在をも喜びにあって共有することができるでしょう。

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月2日

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、
近寄って-ルカ10:33

罪人自身に全く不可能なことを、私たちの救い主はしてくださるのです。主イエスご自身が罪人の友人として来られ、罪人をご自身へと近寄ることを得させて下さいます。私たちが主に近づくことができるのは、主がまず私たちに近づいてくださったからに他なりません。それによって天は、私たちが接近し得るところになったのです。私はかつてある兄弟の家で彼と交わった時のことを覚えています。彼の妻と母親は上の階におり、幼い息子は私たちと共にいました。すると突然、その子が何かを求め、大きな声で母親を呼び出しました。しかし彼女は「ママは上の階よ！上ってきなさい」と答えました。しかし彼は母親に向かって「できないよ、ママ、遠くだもん。降りてきてよ！」と叫び返しました。まさに彼はまだまだ小さく、彼にとって階段のステップは高すぎたのです。そこで母親の方が降りてきたのです。私たちの救いもそのようなものです。主が降りてくださったので、私たちの必要は満たされたのです。主が降りて下さらなかったら、私たちは決して主に近づくことはできませんでした。しかし主が「天から下られ」たゆえに、私たちは引き上げられたのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月3日

しかし主はあなたたちを選び出し、鉄の炉であるエジプトから導き出し、今日のように御自分の嗣業の民とされた。－申命記4:20

旧約においても、新約においても、贖いから離れた献身はあり得ません。これらのふたつは密接に関連しており、他を除いて一方だけを見出すことはできないのです。使徒パウロは自身を主にお捧げするために、牢獄につながれたり殉教することを待つことはありませんでした。彼の献身はダマスカスへの途上において、彼が改心すると同時に起こったのです。神の民が、完全に自分自身を神に明け渡して、献身するために何年も待つこと、それも何か特別な祝福によるといったことは神の予定にはありません。神の意図は、神が人々を救った瞬間に、彼らをも得ることです。神は私に贖いを下さったのです。と、同時に神は私の献身を求めるのです。神の素晴らしい賜物の故に、私は自分自身を神へとお捧げするのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月4日

神は喜んで与える人を愛して下さいます。-2コリント9:7

主のしもべは受けることと共に、与えることを学ぶ必要があります。そしてそれはしばしばとても困難なことなのです！私は、ある日、とても重要な集会に出席するために川を上る旅をしたことがあります。私はすべての必要について主に信頼しなくてはなりません。私の手持ち金はたった18ドルだったのです。ある地点までそれで来ることができましたが、目的地に着くためには、さらに300ドルの必要がありました。しかし出発する前に主は私に、残りの6ドルを友に捧げるようにとお語りになりました。私は出発しました。するとそれから先、まったく期待していなかった安い旅が用意されており、きわめて祝福された1週間を過ごし、しかも帰りの旅までも備えられたのでした。帰ってきて、私が捧げた6ドルにより、友の必要が素晴らしく満たされたことを知った時、それは何と言う大いなる喜びだったことでしょう！

私たちはあまりにもしばしば捧げることに於いて不適切です。私は、もしも単に受けるばかりで、捧げることをしないのであれば、主が遣わした僕として不適切な者です。神聖なる原則は、「蓄えよ、そうすれば豊かになる」ではありません。それは「捧げよ、そうすれば豊かに与えられる」です。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月5日

そこで、イエスはパンを取り—ヨハネ6:11

神が奇跡をなさる際、しばしば物質を用いられます。ここでは5つのパンと2匹の魚をイエスは受け取られました。イエスは石をパンに変えることもできたはずですが、それはなさいませんでした。イエスをご自分に提供されたものによって業をなされるのです。「それらをわたしのところに持ってきなさい」と主は言われました。主は何かをなさる時には、私たちを通してなさるのです。すべての奇跡はここから、すなわち私の持つものを主の御手に渡すことから開始されます。私のパンを私の手に留め置かならば、一人の人を養うことができるだけでしょう。主に明け渡してしまうと、飢えてしまうといったことがあり得るでしょうか？

国全体がきわめて困窮した時代に、預言者マラキはその問題の解決のための神の回答を、イスラエルにもたらしました。それは、什一の捧げ物を蔵に収めることでした。そして見ていなさい、と！それは大きなボトルを封じ込めている小さな蓋を取ることでした。その蓋によって私たちはそのすべての中身に与ることができないのです。天はちょうどそのようなものです。私たちの間でしばしば奇跡がなされないのは、私たちが神に働いていただくための何かをお捧げしないからです。主はきわめて僅かなものを要求されます。それは私たちの所有する物です！しかし主はそれを必要とされるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月6日

しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょうーヨハネ6:9

依然として大勢の人々の欠乏に焦点が置かれており、主の祝福は脇へ追いやられ、彼らの貧しい状態、すなわち彼らの手に所有するわずかばかりのパンに注意が置かれています。私たちが所有するものは惨めなほどに僅かであり、そのことを認めてしまい、さらにそれに注意を払えば払うほど、私たちの将来は暗いものとなります。わが友よ、奇跡は主の祝福から生れるのです！そこに安息するならば、数千人が養いを受けます。もしそこに安息しないのであれば、200万円あったとしても足りないことでしょう。その事実を認めつつ、私たちは私たちの業が変化させられるのを見るのです。そこには自分でやりくりする必要もなく、ごまかす必要もなく、大風呂敷の虚しいスピーチを語りながらの人間的な努力の必要もありません。ただ私たちは神に信頼し、神の奇跡を見るだけです。すでに混乱の中に置かれていたとしても、いずれそれが良き状況にもたらされることを知ります。神による僅かな祝福があれば、それは私たちを巨大な問題をはるかに超える領域へもたらすのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月7日

わたしが選ぶ人の杖は芽を出すー民数記17:5

アロンの祭司職が挑戦を受けていました。人々は彼が真に神の選びの者であるのか疑義を呈していたのです。「この男は神が任命したのか、否か」、「自分たちには分らないのだ!」と。そこで神は誰がご自分の僕であり、誰が違うかを証明されました。神はいかにそれをされたのでしょうか? 礼拝所において12本の杖が神の前に置かれました。そして一晩放置されました。朝になると、神の選びの証拠が、芽が生え、花が開き、実がなった杖によって明らかにされました。

新しい芽と、花と、アーモンドの実でした:これらはすべて復活の奇跡を表しています。それは死から生まれた命であり、それによって務めの神聖さが裏付けられるのです。ただそのこと、そのことだけによるのです。もし復活がなければ、あなたは何も得ません。神は、ただ、ご自分とひとつとされ、尽きることのない命の力に与った者を、ご自身の務め人として用いることができるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月8日

神の安息にはいった者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。-ヘブル4:10

人の創造の時、それは6日目と言われていますが、人は神の安息との関係においてきわめて重要な立場にいました。その時、人は神の最初の6日間の創造の御業になんらの関わりもなかったのであり、それらがすべてなされて後、人は存在するに至りました。したがって神の7日目はアダムの最初の日となったのです。このように神は安息日を享受するために6日間働かれましたが、アダムは安息日からその人生を始めたのです。神は安息される前に働かれます。人は、神と調和するために、まず神の安息に入る必要があるのです。その時にこそ人は働きをなすことができるのです。この原則はクリスチャン生活のすべての奉仕の根本になります。さらには、それは神の創造があまりにも完全であったために、アダムの人生は完全な満足をスタート地点とし得たと言えるでしょう。ここが福音の開始でもあります。私たち罪人のために神は完全に必要な手当てを成就されました。それに付け加えるものは何もありません。当時に、単純な信仰によって、私たちは神の成就された御業の中で安息に入ることができるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月9日

私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。－黙示録12:10

サタンは人殺しであり、欺く者です。彼は人を誘惑し、また攻撃します。しかし今日は特に中傷することがその仕業の中心です。天はこのことを認識しておりますが、私たちクリスチャンもそれを意識する必要があります。夜も昼も彼は私たちを告発します。そして彼らの訴えは、たとえ根拠のないものであっても、私たちの良心を直撃します。そこは私たちにとって彼と直接対決する力の欠けている点です。彼の意図は私たちを絶望へともたらすこと。「私は救いのない敗者だ！神も私には何もできないのだ！」と。良心は重要な部分です。しかし、絶えず「私は正しくない！私は正しくない！」と繰り返すことは、決してクリスチャンの謙遜ではありません。私たちが罪を言い表すことは正当なことです。私たちの罪深さがキリストの御業を超えてしまうほどに、告白する必要はありません。悪魔は私とあなたにその幻想をいだかせるほどに有効な武器はないことを熟知しているのです。それに対する対処法は何でしょうか？神に対して罪を告白しましょう。主に対して、「主よ、私は正しくありません！」と。しかしその時、同時に尊い血潮を思い起こしましょう。そして栄光を主に帰して、さらに申し上げましょう、「しかし主よ、私はあなたの内にとどまります！」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月10日

落ち着け。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。－詩篇46:10

もし神の御座が揺るぐならば、私たちの手でそれを安定させることができるでしょうか？ある人々はそう考えているように見えます。そのひとりがヤコブでした。神は彼に対して、あなたは治めよ、しかも神のご計画を成就するように、と明確に言われたのです。ヤコブは神の選びを知って、それを受け入れたのです。しかしある日彼は、父親がエサウを祝福する意図をもって、彼を狩りに出したことに気がつきました。もしそれが成就してしまったら、神の約束はどうなるのでしょうか？

そこで何か対策を講じる必要がありました！賢く、また知略に長けた彼は、神がご自身ではなし得ないように見えることを、自ら神のためになしました。そしてそれをなすことにより、自分の父親を欺いたのです。しかし彼はこの欺きにより得たすべてのことを放棄せざるを得なくなり、ついに逃亡するはめになりました。そうです、彼は神の選びであり、神が彼を欲したのですが、彼は自分自身も、また彼の神をも知らなかったのです。実際に彼が受けた酬いは厳しい神聖な訓練の学課でした。ああ、賢い人々は何と多くの訓練が必要となることでしょうか！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月11日

人は自分がまいたものを刈り取る－ガラテヤ6:7

神がご自分の子供たちを取り扱う際には、神ご自身の方法を忠実に表現する特異的
原則に基づいてなさいませ。私たちの諸々の罪はキリストによって赦されたのではなか
ったでしょうか？だとすれば、私たちが神の道をそれてしまうとき、神が私たちをねんご
ろに警告してくださることは、むしろ私たちにとっては特権と言えるのです。それは、し
ばしば私たちが今日経験することは、過去の何かと直接的な関係があること、すなわち
自分が蒔いたものを刈り取ることです。私たちは憐れみ深くあったでしょうか？ならば憐
れみが私たちを豊かに囲むことでしょう。誰かの行動に対して非難したでしょうか？なら
ば、遅かれ早かれ、私たち自身も同じ事をするでしょう。そしてその結果を刈り取るの
です。私たちが測る秤に従って、私たちも測り返されるのです。しかも神ご自身によっ
てです。「兄弟に関して悪いと判断することは、実はすでに自分についても悪いと分かっ
ていることなのです！」これが原則です。神の方法は過酷なものではありません。それ
は愛の道であり、私たちに対して十分な諸々のセーフガードが測り与えられているので
す。それを頼りとなさい。そうすれば見えないあらゆる危険を避けることができるでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月12日

あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいます。-ルカ6:38

私は極めて他人に対して批判的なある兄弟を知っています。彼が人を裁くときには「それは神の御手である」という台詞をよく用いました。たとえば誰かが病気になったとします。すると彼は「それは神の御手だ」と判断するのです。確かにある場合はそのとおりでしょう。しかし他の場合、例えば彼が認めたくない兄弟が、子供を失ったとします。そのような場合でも彼は、「それは神の御手である」と書いた手紙を送るのです！私はその手紙を見ました。その時、私は彼はこのように他者を裁いているのだと知って、深い憤りを覚えました。すると神を畏れることが起こりました。それから2週間して、なんと彼自身の子供が病気になり、死んだのです。その時、私はつい、次のような誘惑に駆られました。ペンを取って、「愛する兄弟よ、私は遺されたあなたの悲しみを共にします。しかしあの兄弟が主の裁きの御手によって子供が亡くなったのであれば、あなた自身はどうなのですか？あなたは神の御手が置かれたためであると認めますか？」と手紙を書く衝動を感じました。今こそ、これを語るべきであると！そして私は手紙を書き終わりました。すると神は私を叱責されたのです。私自身も神ご自身が認めないことをしようとしているのではないか？。その時、主の憐れみによって私は引き戻されました。私は手紙を破り捨てました。もしその時、その種を蒔いていたら、私も同じ刈り取りをしていたことでしょう！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月13日

なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。－エペソ2:10

最初の節は次のようにまとめることができるでしょう、「私たちは神の傑作である」と。教会(エクレスシア)は神が生み出された最高作品です。それは改善の必要はありません。私たちはあちこちを見回して破れを見出し、不思議に思うことでしょう、「教会はいったいどうなるのだろう?」と。私はあえて言いましょう、教会は「どうなる」ものでもないのです。教会はすでに完成されているのです。私たちはその目的地を探すのではなく、すでになされたことを振り返るのです。神は世界の基が置かれる前にすでにキリストにあってその目的を達成されたのです。その神の永遠の事実の光の中で神と共に歩む時、私たちはその事実が徐々に実体化されるのを経験するのです。ローマ8:30において、パウロは言っています:神はあらかじめ定めた者を召し、義とし、栄光化された、と。したがって神の所有とされた者たちは、神の御旨の中で、すでに栄光化されているのです。キリストにあって目的はすでに達成されているのです。教会(エクレスシア)はすでに栄光にもたらされているのです!

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月14日

あなたはキリスト、生ける神の子です-マタイ16:16

死は地獄の門の力、武器です。それは今日もそのとおりです。しかし神が私たちの目を開いてくださるまで、私たちは神の御子を告白する価値をほとんど知ることがないのです。しかし、突如として起きる予測し得ない事態にあって、私たちは自分の信仰が働かず、祈りも答えられず、私たち自身の霊すらも麻痺してしまうような経験に陥り、困惑します。その時こそ、私たちはキリストを告白し、宣言することの必要を知るのです。それをするとき、まさにそのことを神は私たちに望んでいたことを理解できるのです。「あなたは主であり、あなたは勝利者であり、あなたは王である」と。最上の祈りとは、「私は・・・を求めます」ではなく、「あなたは・・・」です。啓示が与えられたならば、それを語り出しましょう。祈りの集会で、パン裂きにおいて、また主の御前にひとりで、揺れ動く世において、あるいは暗い欠乏の期間において、「あなたは・・・！」と宣言することを学ぶのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月15日

アブラムは、親族の者が捕虜になったと聞いて、彼の家で生まれた奴隷で、訓練を受けた者三百十八人を召集し、ダンまで追跡した。-創世記14:14

ロトは財産をそこで失う以前に、安易にソドムの地に定住していました。対照的に、この章で示されているように、アブラムはヘブル人であり、「寄留者」であり、巡礼者だったのです。約束の地に向かう途上にあつたのは、敵に対する現実的力を持った彼らでした。アブラムが所有物について神にお委ねしたことは正しいことでした。しかし彼の過ちは愛情と顧みの心から、ロトを去らせてしまったことです。アブラムが自らの霊によって勝利すべく、王たちと対決するために出かける前に、すでに彼は真の勝利者でした。しかし、しばしば容易に自己本位の甥のロトに対する苦言の中に落ちることもあり得るのです。そのような災難の中において、彼は「だから言ったではないか！」と言う事もできたかも知れません。しかし、苦言をたれていても決して勝利は得られません。そのような状況においては、まず私たちは自分の心の中で勝利を得るべきなのです。その男は私の兄弟だろうか？ならば、彼がいかに私を悪し様に言い、傷つけたとしても、主のゆえに彼を愛し、彼のために祈り、自分の力を彼のために総動員するべきなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月16日

すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように、アーメン。-ローマ11:36

あらゆる霊的な働きの創始者は神であるべきです。神の意志がそれを支配し、私たちはこれに完全に同意するのみです。そうです、私たちはさらに進んで、すべては神と共に終わることを告白するのです。そのために、パウロはこう言っています、「神はすべてのことの中にいます」と。しかしさらに深い意味があります。神は単に創始者にして、完成者であるばかりではなく、神はまた働き手そのものでもあるのです。そこで神の力の働くところでは、すべてのことが栄光にもたされます。よって私たちの問題は、開始が「神から」であり、完成が「神へと」向かうものであることを理解してはいても、もうひとつの最も重要な要素を見失うのです。それはこれらのただ中で、その開始と完成の間のすべての偉大な活動は、「神による」べきことです。究極的に神が栄光を取られる時、私たちは何も主張する立場を持ち得ません。神の意志が開始を統治し、神の栄光で完成され、しかして神の力がその間のすべての業の原動力であるべきです。实际的に言って、誰が栄光を取られるのか、その問いかけは完成の際になされるのではなく、真っ只中でなされるべきなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月17日

私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。
-2ペテロ3:15

私たちは人々が神の裁きから救われ、神の栄光へと勝ち取られることを切望しています。しかし、私たちはそこで止まるべきでしょうか？三千から四千の人々が主へと得られたら、あるいは三人か四人かも知れませんが、私たちはそれで目的が達成されたと考えるべきなのでしょうか？それとも、それはこれからの仕事の開始と感じるのでしょうか？私たちは、果たして彼らのうちの何人が、神がその内へともたらしたあの方を僅かでも知ることができるだろうか、と考えるべきではないでしょうか？彼らは依然として単なる集団、網の中の魚の群れ、あるいは「キャンペーンの収穫」とみなされているだけでしょうか。それともあの究極のビジョン(幻)に彼らが捕られたことを願うべきでしょうか？そのためにはまず私たちがそのビジョンに捉えられる必要があるのです。そこで自分自身に問うべきです:私たちはかの使徒と同じように、彼らが頭なるキリストにおいて十分に成長することができるように、彼らに対する重荷を感じているだろうか、と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月18日

そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。
-マタイ10:29

神はご目的をもたれる神です。創造は偶然ではありません。それは神の側の絶対的なご計画の表現なのです。エペソ1章には私たちの選びについての大きい節があります。「神はただ御心のままに・・・」とあり、そのご計画に従って「神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるため」なのです。アダムの墮落を考える時、また私たち自身の罪を覚える時、すべての人のために神の恵みによって死を経られたお方に対する私たちの乏しい応答を省みる時、私たちはこのことにまったく驚きを禁じ得ないのです。私たちは自問自答するのです、どうしてこのようなことがあり得るのでしょうか？そこで、一羽の雀の死、注意を払うにはあまりに小さな事件ですら、神は覚えておられることを、私たちも覚える必要があります。全宇宙を創造された神は、一羽の雀に対してすら目的をお持ちなのです。「だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月19日

また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。－ピリピ4:19

多くのクリスチャンたちは貧しく、自分たちの必要さえも満たすことができません。ああ、そのような彼らは誰のところに助けを求めるべきなのでしょう！一方、他の者たちは富んでおり、その富を測り知ることはできません。彼らが満たすことのできないような必要などはないかのように思え、また彼らが助けることのできない状況などもありえないかのようにです。彼らは自分の元に欠乏を満たさんとして訪れる者たちをみな飽かすことができるかのようにです。多くのクリスチャンが破産に至らないのは、他の者たちによって顧みられているからであり、御体に対して絶えず自分の霊的な富を注ぎ出している者たちがいるからなのです。ところが彼らは自分が債務者となっていることにほとんど気がつくこともなく、また他の者たちも彼らをしばしば軽く扱いかねないのです。私たちが隣人に対して何かを求めることを主が許されているのは、あたかも旅から帰った者たちが私たちに対してパンを求めるような状況です。しかし、主が私たちにこう命じられるときの備えがあるでしょうか？「あなたが彼に何か食べるものを与えなさい」と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月20日

天では、あなたのほかに、だれを持つことができます。地上では、あなたのほかに私はだれをも望みません。－詩篇73:25

主に対する私たちの完全なる明け渡しは、しばしばある特定の事柄によって妨げられます。そして神はその時を待っておられるのです。神はその明け渡しを待つ必要があるのです。なぜなら神は私たちのすべてを所有されたいからです。私はある偉大な国家的指導者が、その自伝で書いていることに深い印象を覚えたことがあります。「私は自分自身のために何も求めません。私はわが国のためにすべてのことを求めたいのです」。ある人が自分のためではなく、その国のためにすべてを捧げることができるのであれば、なおさら私たちは神に対してこう告げるべきではないでしょうか、「主よ、私は自分のためには何も求めません。あなたのためにこそ求めます。私はあなたが願われるとおりの存在であることを願い、またあなたの御旨に沿わぬものは何も求めません」と。主は私たちが僕としての立場を取る以前にあっても、すでに私たちの主権者なるお方です。しかし主はそれを理由として私たちが自分を主に捧げることを願われません。主は私たち自身が、自ら主に対して、自分自身を無条件に委ねることを求めておられるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月21日

あなたは世の光です。－マタイ5:14

ある人たちは尋ねます、「自分は伝道に専念すべきでしょうか？あるいは専門職や商売に携るべきでしょうか」と。いったい神の子の前に二つの道があるとでも言うのでしょうか？聖書の何処にそういった問題提起があるのでしょうか。伝道するのか、仕事を見つけるのか、と。それは私たちが何か選択すべき事柄でしょうか？神の民は証しの灯火です。証しをしないクリスチャンといったものがあり得るのでしょうか？奥義的意味ですべての者が証し人であるのにもかかわらず、僅かの人だけが伝道するといったことはあり得ません。そうではなく、地上においてはすべてのクリスチャンが神の証人であり、そのためにこそ私は生きているのです。これだけが私たち全員に備えられた道であり、それ以外の道はないのです。主に属する者でありながら、証しをしない人は存在しません。すべての人がキリストを宣べ伝えるのです。これは大いなる仕事です。伝道のために時間を用いるのか、あるいはパンを得るために働くのか、という問題提起は副次的なものです。私たちの心の中心が置かれたところにおいて、すべての事がなされるのです。神はビジネスに伝道を足すような者を用いられません。神が用いられるのは伝道にビジネスを足す人です。どちらがどちらに付加されるかの問題です！私たちのビジネスではなく、神こそが私たちの人生の中心を占めるべきなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月22日

評価はすべて聖所のシェケルによらなければならない。－レビ27:25

全イスラエルの中で戦闘に向かうべき人々の数が数えられました。その直前、レビ記の最後の章において、神はご自身に対する捧げ物としてのご自身の子供たちの価値を評価する方法を示されました。(この節を出エジプト記30章と混同しないで下さい。出エジプトでは贖いの値段であり、それはすべての魂に対する贖いの値であり、神ご自身がなされる業における値段を意味します。)ここでは神が一人ひとりの厳粛な評価をしておられるのであり、レビ記27章3節と民数記1章3節を比較してみますと、神に対するそれぞれの価値は、各人が自らの意志によって戦いに備える程度によることが分かります。ここで疑問が起こります: 私たちは数年にわたる戦いに参加することができるだろうか、と。ジェホバなる神は戦いの神であり、戦いのために投入されるエネルギーはもったも尊いものです。老人であろうが、若者であろうが、霊的歴史が長かろうが、短かろうが、今日私たちは自問する必要があります。戦いに備えることにおいて、聖所における私自身の神に対する価値はいかなるものであろうか、と。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月23日

あなたの目は前方を見つめ、あなたのまぶたはあなたの前をまっすぐに見よ。-箴言4:25

私たち神の子供たちの魂にとってもっとも破壊的なことは、自分の内側を見つめることです。内向化することは致命的な病です。このことを理解しているでしょうか？罪についてはそれが致命的であることを容易に理解できます。しかし内向化については、それほどには容易に理解できないのです。明らかな病よりも、むしろ恐れるべきは、より気づかれにくい病なのです。ここで質問をいたしましょう。「高ぶりは罪でしょうか？」。解答は明らかですね。再度尋ねます、「妬みについてはどうでしょうか？」。「それは罪です！」と直ちに答えることでしょう。それにも関わらず、あなたは一日のうちに何度も自分の内側を見つめることがあるのです。そうすることにより、自分が霊的になったかのように錯覚しつつ、その邪悪さを意識しないままに、そうしているのです。

それを止めなさい！御霊に従って歩むことを学びなさい。ひとつの魂に対してキリストを語るように導かれましたか？このことが神から出たのか、自分から出たのか、立ち止まって、調べてみてください。そのようなことをしていれば、その福音を語る機会を逃してしまうことでしょう！行動しなさい、そうすれば解放されることでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月24日

むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。－ローマ6:13

多くの人がその文脈を注意深く見ることをしないままに、ここの「ささげなさい」は聖別を意味していると理解しています。確かにその意味もありますが、しばしば私たちが考えるような意味においてはではありません。それは私たちの本性や資質、生まれながらの知性や能力、さらに諸々の才能と共なる「古い人」を主に用いていただくために聖別することではありません。このことは続く節から明らかになります。すなわち、「死者の中から生かされた者として」です。ここが真の聖別の開始点です。私たちが聖別すべきは、古い創造に属するものではなく、死と復活を経たものだけです。「ささげる」ことは、私たちの古い人が十字架につけられ、私自身がキリスト・イエスにあって神に対して生きていることを認めるときになされるべきなのです。知ること、認めること、主に対して自分を捧げること、これが神聖なる順序なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月25日

そこで、私たちはネフィリム人、ネフィリム人のアナク人を見た。私たちには自分がいなごのように見えたし、彼らにもそう見えたことだろう。-民数記13:33

二つの王座が争っていました。神は地をご自分の統治下にあると見ておられました。神の敵どもは、靈的な邪悪な勢力に守られつつ、地を自分の悪の支配下に置き、神をその王国から追放することを目論んでいました。私たち神の民は、これらの靈的な敵どもを現在の領域から追放し、キリストをすべての頭とするために召されています。私たちはそのために何をなすべきでしょうか？

「主が願われるのであれば、私たちはこの地に入ることができるだろう」。これは10人の送り込まれたスパイたちの悲觀的な報告に対して、ヨシュアとカレブがいただいた少数の見方でした。主が願われるのであれば、一つのこと確かです。すなわち、まず私たちが聖なる生活を送ることがなければ、何千の靈的戦いの言葉を語るとも無益なのです。ネフィリムは巨人であり、私たちはいなごに過ぎないのです。これは間違いありません。私たちはそれを理解しています。そして彼らも理解しているのです！主にとって喜ばしい生き方をいかに送るのでしょうか？それはキリストご自身とキリストが成就された事のうちにあって完全に安息することによります。これをしなければ、サタンにとって私たちは完全に無力です。もしするならば、「彼らの防御は取り除かれる」のです。私たちはキリストによって勝ち得て余りあるのです。

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月26日

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働きます。-2コリント4:12

キリストの十字架は何と尊いものでしょうか！それは個人個人の中に、御体全体にいのちの激流を起こすために置かれています。ただし、それは各人が十字架の働きによって、生まれつきの自分自身が対処されるに任せる時に、効力を発揮するのです。あなたは「人のためにいのちの奉仕をするためにはどうしたらよいですか」と質問するでしょう。しかしそれはあれこれと多くの事柄をなすことによるのではなく、そこから退いて何もしないことによるのでもないのです。それはただ、キリストの死と復活の力が、神と共に働くあなたのうちに作用する時に可能となるのです。ただ単に言葉や働きによって奉仕するならば、環境が彼らにそれらを許さない状況になる時は、彼らの務めは停止あるいは沈黙させられることになるでしょう。彼らにとって、用いられることとは、語りまた働くことだからです。しかしそうではなく、またそうある必要もありません。ただ「キリストの死」があなたの内に働くに任せるのです。すると他者の中にいのちが現れるようになるでしょう。かくして「死が私のうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働く」ことは法則であり、御体の中に生きるための原理なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月27日

あなたがたの五人は百人を追いかけ、あなたがたの百人は万人を追いかけ、あなたがたの敵はあなたがたの前に剣によって倒れる。-レビ24:8

ここに私たちの祈りの型となる絵があります。私たちが地上で同意するのであれば、天において一万の敵が縛られるのです。その危機的場面において、何と多くの神の民がこのイエスの言葉を額面どおりにとらえて、それを実証したのでしょうか！ペテロが牢獄で祈った夜、エルサレムの教会もまた膝まづいて熱心に祈りました。するとヘロデの権威はその祈りに対する天の応えを前にして完全に無きに等しかったのです。ヘロデの領地を天の王国が制覇しました。そのとき、牢獄の鍵もそれに屈し、道を譲ったのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月28日

御霊を消してはいけません。-1テサロニケ5:19

私たちはみな、祈りによって解き放つべき何がしかの重荷を、神から得ることを願うべきです。私たちが真実にそれを祈りの中で解き放つ時、神は次の重荷を与えてくださるのです。私たちが続いて重荷を得ることがないのは、今得ている重荷を解き放つことをしていないからです。祈りの中でそれを解放する時、神は私たちを信頼し、さらに重い責務を任せて下さるのです。

神に対して、私たちの霊において、繊細であることはきわめて重要です。御霊を消してしまうことにより、私たちはこの務めを全うし得ないことが十分に起こり得るのです。もしそうであるならば、神に対して自分の罪を告白する必要があります。そのとき、御霊が新鮮に息吹いて下さる内なる感覚に対して、真実かつ即座に応えることができるでしょう。御霊はあなたの心の中に誰かを置かれてはいませんか？その人のために、すぐに神に対して祈り求めなさい。ああ、わが友よ、神に対して有用な者として仕えることを願うのでしたら、あなたが喪失していた重荷を回復しなさい！祈りにおいて真実でありなさい。祈りに導かれたら、直ちに祈りなさい！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月29日

主の御手が強く私の上にのしかかっていた。-エゼキエル3:14

すべての神のための働きは、あなたの霊の中における御霊の促しによる祈りから湧き上がるものです。そのような重荷がないままに働くならば、あなたのその業は虚しいものであることが明らかになるでしょう。しかし、神ご自身があなたのうちに置かれた促しから開始される業であるならば、それを進めれば進めるほどに、自分が解放されることを感じるでしょう。そればかりではなく、そのような働きは真に霊的な価値があるのです。そこで、神のために有効な働きを願うのであれば、神がその重荷をあなたのうちに置かれ、それによって神の御旨が明らかになるまで待ちなさい。それは誰かにキリストを証しする働きかもしれません。その内なる印象をまず祈りによって表現しなさい。祈りの務めは神のための働きにとっては欠かすことができないのです。そして出て行って、それをなしなさい。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月30日

人に知られないようでも、よく知られ、死にそうでも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。-2コリント6:9

クリスチャンになることは、自分のうちに矛盾した要素が存在するようになることであり、しかし自分の中で常に神の力が勝利されることを意味します。クリスチャンとはそのいのちの内に、本来的パラドックスが横たわる存在なのです。そしてそのパラドックスとは神からのものです。弱い人間の内にあって、どのようにその力が現れてくるのでしょうか？クリスチャン信仰により、またクリスチャン信仰とは、それこそが本質です。それは弱さを取り除くことではなく、また単に神聖な力が現われることでもありません。それは人間の弱さの中に働く神の力の現われなのです。なぜなら神が私たちのうちでなされることは、単にネガティブな事でもなく、ポジティブな事でもありません。それは両方なのです。神は私たちの弱さを取り除くのではなく、ところ構わず無秩序にご自分の力を与えることでもありません。そうではなく、神は私たちを弱さの中に留め置かれます。そしてそこにご自分の力を注がれるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(7月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

7月31日

すべての聖なる者たちから、特に皇帝の家の人たちからよろしくとのことです。-ピリピ4:22

あなたはこれまでに、パウロがエペソ1:18において記述している、「聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いている」ことを現している教会に巡り会ったことがありますか？あるいは第一コリント6:11における、「主イエス・キリストの名とわたしたちの神の霊によって洗われ、聖なる者とされ、義とされて」いる教会はどうでしょうか？あなたは言うでしょう、確かにそれは教会の立場上の表現であって、実際の教会の状況を見るべきだ！、と。私はそれに対して答えましょう、それは違います。その記述は教会のリアリティなのです。ローマ人に向けた書簡では、パウロはある翻訳者たちよりもよほど大胆です。彼は書いています、「召された聖徒」、あるいは「召しによる聖徒」と。しかしある翻訳者たちはこれをそのまま文字通りに訳すことは危険があると考えたのでしょう。そこで彼らはその霊的な事実を、「聖徒とされるように 召された」と訳して、セーフガードを設けたのです。もし私たちが聖徒と「されるように」召されたとすれば、私たちが実際にそうなるまでに、どれほどの期間その状態であり続けることでしょうか？神に感謝します、私たちは今すでに聖徒なのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想